

平成22年度決算のあらまし

実質市債残高* 7年間で約 6,000 億円削減達成 プライマリーバランス* 14年連続黒字

一般会計決算額は、歳入7,565億円、歳出7,480億円です。(グラフ参照) 差額から平成23年度への繰越金84億円を差し引いた実質収支は7,671万円と12年連続の黒字となりました。しかし、収支均衡のため、土地の売却など10億円の財源対策を講じた結果であり、依然として厳しい財政状況に変わりはありません。

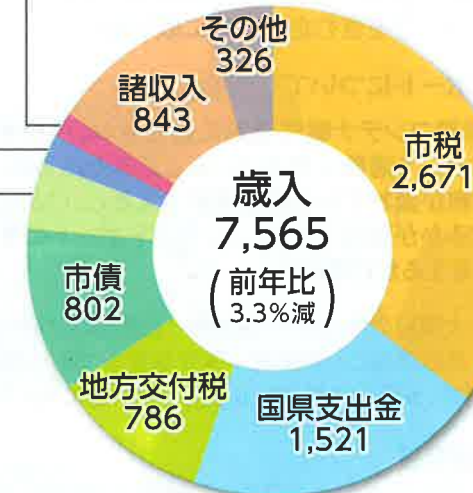
歳入のうち市税は、依然として厳しい雇用情勢のもと、個人市民税が大幅な減収(対前年度△60億円)となるなど、市税収入は2年連続の減収となりました。しかし地方交付税(786億円)と臨時財政対策債(423億円)とをあわせた実質的な地方交付税総額は、民主党政権の地方財政重視だからこそ、対前年度180億円の増額となりました。

一方、歳出は子ども手当の創設や生活保護の増などに伴い扶助費が、学校整備の増などに伴い投資的経費がそれぞれ増加しました。また、職員総数の見直しなどに伴い人件費が、市債残高削減の取り組みなどに伴い公債費が、定額給付金の終了などに伴い物件費がそれぞれ減少しました。

■ 一般会計決算状況 (単位：億円)

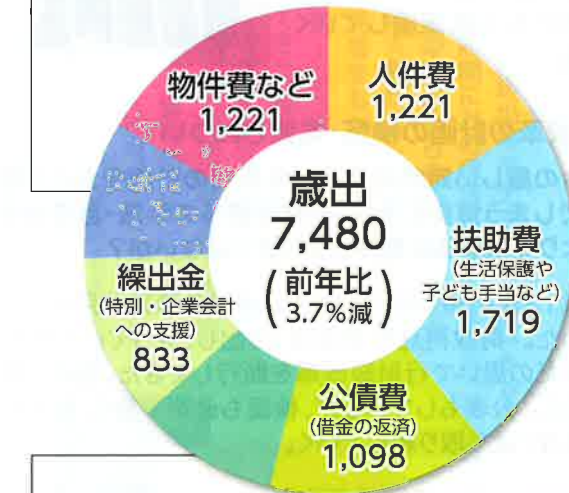
財産収入 140

使用料・手数料 132



譲与税・交付金 344

貸付金 (中小企業融資など) 675



投資的経費 (道路整備や学校の耐震改修など) 713

■ 特別会計決算状況 (17会計中主なもの 単位：億円)

会計名	歳入	歳出	差引	
特別会計 全体	7,167	7,153	14	
主なもの	公債費	3,882	3,882	-
	国民健康保険事業費	1,494	1,494	-
	介護保険事業費	990	983	7
	市営住宅事業費	293	290	3
	後期高齢者医療事業費	265	264	1
	市街地再開発事業費	113	112	1
	空港整備事業費	24	24	-

■ 企業会計決算状況 (単位：億円)

会計名	収入	支出	損益
企業会計 全体	1,268	1,198	70
下水道事業会計	233	214	19
港湾事業会計	183	160	23
新都市整備事業会計	132	110	22
自動車事業会計	131	130	1
高速鉄道事業会計	222	228	▲6
水道事業会計	352	344	8
工業用水道事業会計	15	12	3

※実質市債残高とは市債残高から市債返済のための積立金を除いたもの。

※プライマリーバランスとは、財政の健全性を表す目安の一つで、黒字を達成しているということは、その年度の借金の返済(元金+利子)が新たな借入を上回っている状態を指す。